

T.K. さん
(2009年3月アンケート記入)

留学先について

学校名：Universidad Nacional Autónoma de México (UNAM：メキシコ国立自治大学) 附属語学学校 Centro de Enseñanza para Extranjeros (CEPE：外国人教育センター) 及び El Colegio de México (COLMEX：メキシコ大学院大学)

専攻：歴史学

課程：Investigador Visitante (客員研究員) / 交換留学

留学期間：2006年8月～2007年7月

留学の動機

なぜメキシコに留学しようと思いましたか？なぜ他のスペイン語圏ではなくメキシコを選びましたか？

メキシコに留学しようと思ったのは、単純に自分が専門的に研究しようとする領域に、メキシコの歴史が密接に関係していたからです。近年、学术界では世界システム論などに関する議論が活発で、グローバルな視点から世界の歴史を捉えようという動きが盛んですが、世界の経済が一体化される過程において、メキシコの銀とアジアの工業製品が大きな役割を果たしたといわれています。それで、そういった視点からの研究があまり進んでいない環太平洋世界の経済史・国際関係史を調べてみようと思立ちました。昔、スペインの植民地だったフィリピンは、中国とメキシコの中継貿易基地となり、さらにメキシコはフィリピンとスペインの中継地点になった・・・この関係は、アメリカやイギリスが台頭してくる19世紀にはどうなっていくのだろうか？という疑問をもち、研究テーマとすることにしました。日本では史料が手に入りやすく、またスペイン語を習得しなければならなかったので、機会をとらえて留学をしようと思立ちました。

留学前の準備期間

留学を思い立ってから実際に現地に出発するまでどのくらいの準備期間が必要でしたか？

留学を漠然と考え出したのは大学3年生の終わり頃です。日墨研修生・学生等交流計画という留学制度について知り、過去の経験者から話を伺いました。その後、色々な方から、思い立ったらとにかく行ってみようように勧められ、本格的に準備を始めたのが8月末です。同計画による留学の応募締切が9月末でしたから、かなり時間に余裕のない準備でした。第二次試験終了後はひたすら結果を待つだけで、12月に合格が分かった後、出発の1ヶ月くらい前(7月)に出発日の案内があるまでは特にこれといって準備をすることもありませんでした。ですから、同計画をお考えでしたら、応募の準備のために最低でも2～3ヶ月は確保しておかれたほうが良いと思います。実際の出発に向けての準備は、私の場合は2週間くらいでできてしまいました。

ただ、私費で留学する方は、自分でビザなどの手続きをすることが必要ですから、もっと余裕をみなければなりません。

スペイン語の勉強方法

日本でスペイン語をどのようにして勉強しましたか？どの勉強方法が一番効果的だったと思いますか？

私のスペイン語の勉強は、留学前には(1)大学の一般教養課程、(2)独学、(3)個人教授の3つの方法で学びました。(1)に関しては、文法を頭に入れるのに役立ちました。まじめに取り組んでいれば、辞書を使って大抵のスペイン語を読めるようになります。ただし、会話と作文の能力はつきません。大部分は(2)の独学で学びました。とにかく貪欲に多読・乱読することで語彙と読解力をつけ、CDでリスニング力を養いました。また、作文はスペイン語を母国語とする友達を作ってメールを交換することなどを通じて学びました。(3)の個人教授は、留学決定後、最も足りない会話力を磨くために、人づてにコロンビア人の先生を見つけて会話を練習しました。

上記(1)～(3)のどれも大事でしたが、効果的という点では、(2)の独学が一番です。やる気があれば、なんでもできるものだ実感しました。また逆に、独学である程度までできるようにならなければ、現地に行っても飛躍的な進歩はしないだろうし、留学は単なる長期旅行になるだろうという考えで取り組んでいましたので、「自分にとって留学は価値があるのか」、「本気で留学したいのか」を自問・確認する良い契機にもなったと思います。もっとも、(1)、(3)は、独学で陥る偏見を修正したり、不足を補ったりするのに不可欠です。

情報収集方法

どのようにして情報を得ましたか？

残念なことに、メキシコの大学の情報は日本ではそれほど簡単に手に入るものではなく、ましてスペイン語初心者には情報収集は大変な労力がかかるものです。私は人づてに留学生などを紹介してもらって話を聞いたり、大学のホームページから情報を得たりしました。それでも結局、現地に行ってから予想と違っていたので、結果的に大学を変えることになりました。現地での情報収集はしかるべき人から情報を入手することが重要です。メキシコは、表向きの情報と、どのような人から入手するかによって変わる実際の情報との差が日本以上に大きな国だと感じました。

現地の学校への問い合わせ

学校へはどんな手段で連絡を取りましたか？その際に困ったことはありましたか？それをどのように解決しましたか？

日墨研修生・学生等交流計画を利用する場合、こちらは同計画事務局に志望校を伝えるのみで、実際の手続きは同計画の事務局が行ってくれたので、特に大学と連絡を取る必要はありませんでした。志望校決定のために、色々情報を収集したい場合は、e-mail が最も便利でした。ただ、問い合わせるべき大学担当部署がどこか分からないことが多くありました。とりあえず目星をつけて聞いてみても、他の部署に問い合わせるように指示されることが続き、結局どこに問い合わせるべきなのか分からない、ということも多々ありました。

現地で大学を変更する際には、e-mail や実際の訪問を通じて粘り強く交渉できましたので、根気と時間とエネルギーとチャンスがあれば、特に困ることはありません。

出願

出願時にどのような書類をどこに提出しましたか？書類を準備する上で苦労したことはありましたか？それをどのように解決しましたか？出願から正式な許可書を受けとるまでに、どのくらい時間がかかりましたか？

前述のように、日墨研修生・学生等交流計画の事務局が全て処理してくれるので、私が大学の出願書類などを書くことはありませんでした。

質問の趣旨とは違いかもかもしれませんが、メキシコへ渡ってからの転校手続きは以下の手順で行いました。まず収集した情報に基づいて、指導をお願いしたい教官を決め、メキシコの知り合いから紹介状を書いてもらって、コンタクトをとりました。それとともに研究計画書と自己アピール、及び日本の指導教官からの推薦状を添えて、転校したい大学の事務局に提出しました。

出願・入学資格

現地で入学試験を受けましたか？どのような教科の試験を受けましたか？

メキシコ大学院大学の入学試験は受けていません。わたしは Investigador Visitante (客員研究員) という肩書きで、自分の研究のために大学に籍を置き、指導教官よりアドバイスをもらう身分だったからです。

滞在許可の取得(日本での取得と現地での状況)

どこで滞在許可を取得しましたか？

入国前に日本で取得しました。

申請時に提出を求められた書類にはどのようなものがありましたか？申請料はいくらでしたか？申請から取得までどのくらいの日数がかかりましたか？

これも、日墨研修生・学生等交流計画を通しての手続きのため、同計画事務局が全て行ってくださいましたので、私から具体的な手続きをすることはありませんでした。強いて言えば、滞在期間中にパスポートの有効期限が切れないように更新しておくことくらいです。

保険・医療・予防接種

どのような保険に入っていましたか？保険料はいくら払いましたか？留学先が指定した保険に入りましたか？日本でどのような予防接種を受けましたか？

保険は、メキシコ政府の公務員保険に自動的に加入する（保険料は奨学金に含まれる）とのことでしたが、補償範囲が幅広くなかったため、日本の民間の保険に入りました。保険料は10万円程度だったように記憶しています。

予防接種は、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、狂犬病を受けていきました。時間的な余裕があるならば狂犬病の予防接種も考慮しておいたほうが良いでしょう。

JASSO 注：http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/cs_ame/meacute.html（メキシコ 予防摂取情報参照）

学校生活

現地の授業と日本の学校(大学)の授業の進め方に違いはありましたか？教授・先生の教え方や授業内容に満足していましたか？

留学期間の前半は、メキシコ国立自治大学の語学学校でスペイン語の授業、および哲文学部での講義を聴講しました。

語学学校では、毎日の授業で作文を書いたり、課題図書を読んだり、会話の練習をしたりといった内容でした。特に、メキシコの歴史や文化の授業が面白く、国立人類学博物館やカルメン博物館に行くと、専門的な解説を聞くことが出来ました。また、日本の文化をスペイン語で説明するなど、普段当たり前と思っているものを客観的に見る機会があったことは、新鮮な経験でした。また、中国人、韓国人、スイス人、ルーマニア人など、色々な国籍の人と友達になれたことも収穫でした。

哲文学部で受けた講義の進め方は、日本とさほど変わりはありませんでした。講義を聴き、課題図書を期日までに読んでレポートを仕上げ、かつ期末テストを受けるというものです。ただ、日本と違って講師が生徒に発言を求める機会が多い点が特徴として挙げられます。また、授業の開始終了時刻が授業によって違うこと、廊下が騒がしいのが当たり前などにはびっくりさせられました。授業内容に関しては、本を読めば分かることの説明が多く容易に理解できたため、私にとっては満足のいくものではありませんでした。

前述のように、私は後半の半年間はメキシコ大学院大学へと転校しましたが、この学校では客員研究員として籍を置いていましたので、授業を受けていません。朝から晩まで、学校とは別のところにある国立公文書館（Archivo General de la Nacion de Mexico）に籠って、古文書と格闘していました。

授業の準備はどのようにされましたか？予習・復習にどの程度時間をかけましたか？日本で学んだ語学力は充分でしたか？

講義の場合、課題図書の読書と、前回授業の復習を授業の準備として行っていました。一応、録音機を持って教室に入っていました。録音しても聞く時間がないのでほとんど役に立ちませんでした。むしろ、授業中に全て覚えてしまうことが予習復習の鉄則です。課題図書の読解には、場合によっては一晩・二晩かかる場合がありました。

日本で学んだ語学力は、「辞書があれば何とかなる」程度のもので、授業のスピードや周囲の読解のスピードについていくまでには1~2ヶ月かかりました。

授業以外に勉強する際、どんな場所を利用しましたか？学校の施設は充実していましたか？

メキシコ国立自治大学の語学学校在籍時は、勉強は自宅かコーヒーショップでしていました。メキシコ大学院大学の設備は非常に整っていて、図書館書庫や図書館付属の自習室を毎日利用しました。学生食堂は安く利用できました。だいたい、国立公文書館に 8:00～16:00 まで、それ以後メキシコ大学院大学図書館に 20:00 くらいまで、さらにコーヒーショップで 23:00 まで、というサイクルで勉強していました。

試験はどのように行われましたか？試験対策はどのようにされましたか？

メキシコ国立自治大学の語学学校では、2ヶ月に1度試験がありました。試験対策はこれまでの積み重ねなので、特に準備することはありませんでした。メキシコ国立自治大学哲文学部の講義のテストは、最終授業の時に先生が論述問題のテーマを発表し、その場で書かせるといったものでした。級友にノートのコピーを取らせてもらって足りない部分を補うという対策を取りました。メキシコ大学院大学は、前述のように、研究生なので試験はありませんでした。

プレゼンテーションスキルやレポート(エッセイ)作成の際の文法チェックなどの語学サポートは大学で用意されていましたか？用意されていない場合は、どのように対応していましたか？

ほとんどありませんでした。他の生徒の見よう見まねと、友達への添削・練習の依頼などで対応していました。

学校全体やクラスで、留学生の割合はどのくらいでしたか？留学生の中で、日本人の割合はどのくらいでしたか？

メキシコ国立自治大学の語学学校はほぼ全員留学生です。対して、メキシコ国立自治大学哲文学部では、留学生はクラス内は私一人でした。学校全体では不明です。メキシコ大学院大学に関しては、私の知る限り、4人の日本人留学生がいましたし、他国の留学生もいたようです。

クラス外の活動(クラブ、サークルなど)に参加しましたか？どのような活動をしましたか？

参加しませんでした。

現地の学生とどのようにして交流を深めることができましたか？大変だったことはありましたか？

たまたま同じクラスにいる学生と知り合いになることはありましたが、一緒にご飯を食べること以外は、深い交流はしていませんでした。大変なことといえば、言語でなく文化の壁です。微妙な無意識の行動が暗示することが、文化によって違うので、誤解をしたりされたりすることがあります。話し合えばすぐに解決することですが、誤解を誤解と気づかない場合、話し合う機会もなく不和になるといったことがあります。

日本人留学生とどのように接していましたか？大変だったことはありましたか？

留学期間の前半は、周りに同じ語学学校に通っている日本人が常にいたので、毎日接していましたが、後半はほとんど会いませんでした。また、自分の研究が忙しかったので、会う機会を作ることができませんでした。

他国の留学生とどのように接していましたか？大変だったことはありましたか？指導教官とのやりとりで大変だったことなどはありましたか？

他国からの留学生と接するにあたり、特別なことは何もありませんでした。共通語のスペイン語を介してコミュニケーションをとっていました。

メキシコ大学院大学の指導教官は、いつもメールでしか対応してくれないなど、少々大変なことがありました。

日本で得ていた情報と食い違っていたところがありましたか？

留学前に、メキシコ人は時間を守らないとか、ルーズだとかいったネガティブな情報を多々聞いていましたが、基本的に人によって違うことを強く感じました。特に、学校のような公的機関では、日本人以上にきちんとしている人も多い印象を受けました。

宿泊施設

到着後初めに選んだ宿泊施設は何でしたか？どのようにして宿泊施設を探しましたか？

到着後は、現地受け入れ機関であるメキシコ国家科学技術審議会（CONACYT）が用意したホテルに泊まって住むところを探しました。私は、以前旅行したときに知り合いになっていたメキシコ人の家にホームステイし、結局1年間そこで生活しました。

トラブルはありましたか？その際、どのように対処しましたか？

ホームステイ先は家族として受け入れてくれたのですが、最初、皿洗いや洗濯物、掃除などをしようとする、お客様扱いで、「いいよ、いいよ」とさせてくれませんでした。2~3ヶ月いると、逆に「何でしないの？」という態度に変わってきました。それで、最初から強いて家事に参加させてもらうこと、よく目を光らせて手伝えるところはすぐに手伝い、陰徳を積んでおくのが、ホームステイでは必要なことだと思います。

現地の食事情

普段はどのように食事をされましたか？現地の食事・食材で苦労したことはありましたか？日本の食材を手に入れることはできましたか？

メキシコ大学院大学での研究中は、朝は自炊、昼食は学校の食堂で、夜は自宅で朝食の残り物を食べました。食事・食材で苦労するのは生活に慣れるまでの最初の1ヶ月で、その後は何とでもなりました。日本の食材は手に入りますが、高価です。

留学費用・お金の送金方法・管理方法など

学費(+諸経費)はいくらでしたか？またどのような支払方法が便利でしたか？

学費に関しては、日墨研修生・学生等交流計画による奨学金で賄われていましたので、関与していません。支払いは基本的にキャッシュカードが用いられていました。

学費以外の生活費(住居費、食費、光熱費、教養・娯楽費など)は、1か月または留学期間全体の金額を教えてください。

1ヶ月に、約3,000~4,000ペソでした。特別な支出がある月でも、6,000ペソは超えません。なお、1ペソは約10~16円でした。

お金をどのように管理していましたか？日本からの送金が必要な際、どのように送金してもらいましたか？

お金は銀行に預金し、1ヶ月に一度必要に応じて引き出していました。ただ、家計簿は徹底的に厳しくつけていました。つましく生活していたので、日本からの送金が必要な場面はありませんでしたが、日本の銀行の国際キャッシュカードを作っていたので、万が一の時には日本国内の銀行の口座に入金してもらう予定でした。

医療

現地で病院にかかれたことはありますか？大学内の医務室や付属病院で医療サービスを受けることは可能でしたか？

現地では、予防接種のために一回病院に行きました。それ以外では、腹痛と下痢で倒れたときに、ホームステイ先の人がかけてくれた町医者への往診を受けたくらいで、幸い何もありませんでした。

現地での各種相談先 / 支援組織

相談先の案内は事前に知らされていませんか？学校内・学校外で問題があったとき、誰に相談しましたか？住居などについて支援を受けられるような学生互助会（自治会）などがありましたか？その支援を受けましたか？

知らされていましたが、基本的に利用するような事態は起こりませんでした。

治安

現地の危険地帯情報をどのようにして収集しましたか？現地でどのような防犯対策をしていましたか？盗難などを含む犯罪に巻き込まれたことはありましたか？その際どのように対処しましたか？

在メキシコ日本国大使館から、安全情報のメールが送られてきました。あとは、近所の人の情報やテレビ・新聞の情報を収集しました。基本的な防犯対策は、危険な地域に近寄らないこと、夜遅く歩かないことですが、私は夜遅くまで勉強していましたので、どうしても深夜に帰宅せざるをえませんでした。ただ、直帰するよう心がけていました。犯罪に巻き込まれたことはありませんが、犯罪については良く聞きました。対策としては、上記のような行動に尽きると思います。

通信関連

パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)などの現地での利用はいかがでしたか？

パソコンは、無線 LAN があれば、コーヒーショップや大学内で利用できます。そのための機器は日本から持って行きました。携帯電話は、プリペイド式のものを持っていました。

帰国後の進路

現在の所属をお知らせ下さい。

京都大学大学院文学研究科博士後期課程に所属して、引き続き研究を続けています。

あなたの留学経験は現在の仕事・学業にどのようにいかされていますか？

留学中に集めた史料は今でも研究の貴重な基盤になっていますし、語学力・人脈も今でも役に立っています。とくにメキシコは人脈が非常に大きな影響力をもつ国です。

後輩へのアドバイス

これまでの留学準備と留学生活を振り返って、「日本にいる間にしておけば良かった」と思うことはありますか？

語学力はいくら磨いても十分ではありません。是非、真剣に取り組んでください。また、自分の専門分野の先輩が、どこの大学で何をしていた、現在の研究は何なのか、自分の研究に必要な資料はどこにあるのかといったことを、出来る限り明確にしておくことです。私はこれを忘れていて苦労しました。できるなら、指導をお願いしたい教官にメールを送って、「私はこういうことに興味があるが、あなたのところで学べるか、そうでなければ誰に聞けばいいか」という趣旨の質問をしてみてください。

留学期間を送る際の注意点と、これから留学を考えている後輩への助言をお願いいたします。

何をしに行くのかを明確にしてから行くことが重要です。同じ日本人留学生で、遊んでばかりで奨学金が足りないといっている人が多かったのですが、そういう行動は、まじめに取り組んでいる人にも迷惑をかけますし、なにより自分にとってマイナスなはずで。

また、自分は違う文化圏に行くのだから、そこの文化圏の人々が何を見てどう感じているのかを知ろうという気持ちを持つことは大切です。向こうに行ってから、メキシコ人の悪口ばかりを言うのではなく、なぜ日本人に理解しがたい行動をとるのかを冷静に見られるようにしてください。